

幼 兒 教 育

第二十二卷
第十、十一號

大正十一年十一月十五日發行

體育と幼稚園

日本體育學校教授 富 永 た か 子

○
體育、國民體育は今や昇天の勢で盛になつて參りました。これ二十世紀の一大賜物でございまして、これによつて人類生活の向上發展も炎上し、文明も日に進み、諸種の運動も之れに伴つて白熱化してまゐりますやうになりました。しかし此の體育といふ事は、古い昔から心育よりも軽く見られて居りました思想が消えず、體育の隆盛になりました今日、未だ我が國におきましては、教育は心育であつて體育は其の補助手段ぐらゐにしに思つて居らない方が残念ながら多いやうでございます。

一體體育といふことは、身心一致の行動をするといふことにあるのでありまして、生理學に於ても心理學に於きましても、靈肉は一體であつて昔の人の

云ふたやうな、亦或る一部の宗教家の申しますやうな、靈と肉とを別々に考へた舊説は捨てられて、人間の五體あれば靈之れに宿り、靈の能力は肉の作用を通じて現はれ、肉は靈によりて生き、肉の走るところ靈之れに伴ひ、靈の向ふ所肉之れに従ひ兩者は同時に生き得べきものであつて、決して靈肉は別々のものでないといふ一元論は證據立て得るやうになりました。

そこで身體が壯健であれば随つて腦髓も丈夫であり、精神を宿して居るところの腦髓が完全であれば精神も健全になることは言を俟ちません。健全なる精神は健全なる身體に宿るといふ希臘の格言は此處の事でありまして、腦髓が健全なれば動作の機敏耐久精神の快活剛毅などの諸徳は容易に養成され、常

識の發達品性の向上等、精神上の目的も達することが出來ます。

世は日一日と文化してまゐります。此の世の中の要求に従つて能率を向上させてまゐりますには、どうしても健全な身體と健全な精神とが伴はなくてはなりません。古代希臘の文化はスバルタ・アテテの身心二育主義の賜物であり、近世獨逸の勃興はヤーン・シルレルの權化であります。

惟ふに全く教育の基礎は體育にあるのでありまして、心育も亦體育に立脚點をおかなければ完全には行へないのでございます。

雨にさらされ風に吹かれ、鳥に啄められ人に踏まれて生長する蓬は、我が儘な振舞をして路傍にやせながら生いたつて居りますが、麻の中に育つた蓬は眞直におだやかに生長してまゐります。之れが不自然であり前者が自然であるかも分りませんが、私はこゝに麻の中に眞直に育つた蓬をかり、正しいものとして例に引いて見たいと思ひますのは、環境により、境遇により、自然により、其他千差萬物の種々の事情によつて、矢張り人間も體育をしなければな

らないやうになつてまゐりました。あゝ矢張り人間も麻の中に育たなければならぬものではないでございませうか。大人は大人、青年は青年、少年は少年、幼年は幼年と、それ〴〵其の度に應じた體育を必要として居ります。近頃獨逸では、運動によつて筋肉能力を利用する幼児の爲めの體育をさへ施して居るものがあります。

幼稚園は其の保育事業として遊戯・唱歌・談話・手技をなすのでありますから、義務教育を施す小學校とは異つて、體育方面におきましても積極的精神を要する體操といふよりも、知らず〴〵の間に運動となり、合せて規律協同の良習慣を養ひ得る遊技が何よりであると存じます。子供は別に何の刺戟がなくとも何かしら活動しなければならぬ特性を有して居るものでありまして、此の幼児期に於ける小供の活動は亦著しいものでございますが、其の活動は單に遊ぶといふことに止つて、別に何等の意義もなく目的もない活動であります。故に其の運動は正確を缺き、ために持つて居るものを落したり、亦小供は頭が比較的大きく胸が長くて足が短うございますか

ら平均がどりにくく、ために時々ころんだり致し
すから、物を破壊し衣服を汚すなど親泣かせの時
でありますけれども、グロースの云ふ通り遊戯によ
つて自分を教育しつゝあるのでありますから、それ
を差し止めるが如きことなく、良い遊戯へと導くや
う致したいものでございます。フレーベルが動作遊
戯を幼稚園に創めて授けましたのは最も當を得た
ことでございます。

幼児期といふ時代は榮養本能が強く、消化系統が
中心となつて食べたり飲んだりすることが盛に行は
れます、これは生長しなければなりませんからで
ございますけれども、之れが爲めに胃腸を害するこ
とがあります。

若し此の間家庭に在ります者は、母や下婢を相手
に我が意のまゝに我意を張り、食物の如きも何の時
間的制限もなく、至つて無秩序なる終日を送るので
あります。けれども園児は之れに反し、起牀の時
間より帰宅まで萬事規律正しき生活を致しますがた
めに體を害ふ懸念も少く、自分の事は自分でするこ
といふ幼児には何より大切な此の良習慣は幼稚園に於
て養はれます。かくの如き良習慣は家庭では容易に

爲し得ません。此の秩序正しき生活は大いに攝生に
かなひ、體育上積極的の運動と相俟つて必要のこと
でございます。其の運動をして小供の本能化するや
うに導くためには、幼い兒童に運動をするといふ片
苦しい束縛的の興味のないことは止めて、運動を習
慣づけるための手段として兒童の眞の活動其のまゝ
を利用し、興味につれて行はしめ、漸次運動の必要
を體得せしめますやうにしなければなりません。

何しろ運動と申しますと主として筋肉を使用する
のであります。筋肉は人を造るといふ西諺の如く、
運動では筋肉使用を最良として居ります。身體の筋
肉は重量から申しましても人體の殆ど半分を占めて
居るのでありますから、筋肉を使用すればそれに従
つて血液循環をよくし、酸素の要求につれて呼吸を
盛にし、全身の諸機關の働きによつて新陳代謝を増
すなど好結果を來す最良方法でございますから、兒
童の本能として愉快に夢中にする間に右の効果を收
めさせるやうに致したいと思ひます。

運動には精神が伴はなければ、即ち無意識の運動
は體育の目的には適ひません。けれども幼稚園の保
育事業としてはそれ迄爲すべきものではありませ

ん、之れに關していづれ後日申上げたいやうな氣が致します。

日本人は一體眞似の上手な國民だそうでございます。其の缺陷を云へば創造の力に乏しいと云ふこととあります。即ち新規に造るオリヂナリチーの力に乏しいのであります。故に新規なものが出来たら其れを眞似ようと待つて居りまして、自分で新規な方法を考へてしようとは致しません。よいと思ふとそれを輸入したのみで工夫もせず規則大事と千偏一律にして居ります。かゝることなく成可く子供の好みに應じて無味乾燥を避け、面白く運動をさせ。さうして兒童の體力の練磨體格の増進といふことを考へて頂きたいものでございます。

實際我々は毎日家庭の人として生存する所が多いのでありますから、家庭體育の如何は忘れることの出来ない重大なことでございまして、之れが改善向上は忽に出来ないことでございます。故に舊習を打破するといふことは困難ではありますが、よりよい事が見つかりましたならば、何時でも改良を加へて時代に適したよい生活を致したうございます。先づ

日本の家庭の標準となるべき一家の主人公の遊戯の方法が、外國のそれと異り、體力を進めると云ふ事よりも、却つて體力を殺ぐ方が多いやうであります。西洋人は老人でも集りさへすれば遊ぼうではありませんか、散歩致しませうと云ふては公園とか郊外に出掛けますが、日本では先づ座敷に火鉢を引き寄せて雪見をしつゝお料理に喜び、その掲句基や將基で遊ぶと云ふ有様でございます。そんな時子供をつれて郊外に出て新鮮な空氣の中に快さを味はしめ、運動を自ら好むやうに家庭から體育的獎勵に努力して頂きたいと思ひます。茲に家庭と幼稚園との連鎖をとりたいたころではないでございませうか。